



新春のあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

皆様方にはお変わりなくご健勝に一年をお過ごしになられたと拝察し、お慶びを申し上げます。

開設して11年目の「川口結いの家」も、入居者の皆様の生活と命を平穩に無事にお守りしてお正月を迎える事ができた事をスタッフ一同嬉しく思い、支援をいただいている多くの皆様に深く感謝いたします。

世間の時間の流れは本当に速く、あっという間に一年が過ぎてしまいます。去年のお正月を迎えたのは、つい昨日の事ではなかったかと錯覚してしまう程です。自然の変異や社会の仕組、想定外の事件が複雑に交錯し、ゆっくりした時間の摂理に身を置く暇もなく時が過ぎていってしまうためでしょうか。便利になったこの現代の社会に生きる事が人生にとって本当に幸せなのかとふと考えてしまうのは、私が年老いた由縁でもあるのでしょうか。しかし、そんな社会のスピードとは無縁な時間がこの施設には流れています。入居されている方々が一日をゆっくりと暮らす生活をスタッフが支えています。このゆったりゆったりした生活のリズムと時間を尊重してお世話することが肝腎と、この施設は考えています。元気な介護者の時間の都合を強いるのではなく、お一人お一人の状態に寄り添う介護を目指しています。

かように介護のクオリティーを最優先に考えてしまっていますが、日本人の高齢化に伴う社会の変容が、介護の現場にも影を落とそうとしています。少子高齢化の波はすぐ近くまで及び、国や自治体の医療介護、福祉政策の抑制に連動していきます。今後、運営の工夫を一層考えながら、よりよい介護生活を支援していく所存です。そのためには家族の方々、ボランティアの皆様、地域の皆様や行政のお力添えが支えとなります。

今後も宜しく御支援いただく様、お願い申し上げます。



理事長 堀尾 静

新年にあたって

明けましておめでとうございます。

昨年は消費税8%となり皆様方の生活はどう変わりましたか？

新たな消費税アップは若干延期されたものの、今年は介護保険法の見直し(地域支援事業の充実、予防給付の見直し、特養の機能重点化、低所得者の保険料軽減の強化、介護保険事業の見直し、サービス付き高齢者住宅への住所地特例化の適応)が平成27年4月1日から施行されます。

今後65歳以上の高齢者はますます増え、2042年にはピークを迎える予測です。持続可能な社会保障制度の確立を図るために改革の推進は必要と思いますが、私たちの生活スタイルは今後どうなっていくのか心配になってきました。この川口結いの家も、先を見てビジョンを考え、施設経営に一層取り組まなければならないと思っております。

私としては、今回の選挙の結果を踏まえて社会保障、特に介護施設で働く職員の人件費がアップしてくれるのを期待したいです。一家の大黒柱である職員も多く在籍しております。不規則な勤務や、台風、大雪などの悪天候の時も、利用者様が待っているという思いで手に白い息を吹きかけ背中を丸めて出勤しています。職員の生活を守る意味でも、改善していただきたいと願っています。

高齢者が大好きで、何よりこの仕事が生きがいになっている職員がこの施設には多くいます。そんな職員たちが迷いもなく働けるよう改善を期待し、私も職員のやる気に結びつくような施設作りに邁進したいと思います。

昨年の漢字は「税」でしたが、今年は「笑」になれたらいいなと願っております。

利用者様・入居者様の健康と笑顔が持続できるように、職員も新たな気持ちで頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。



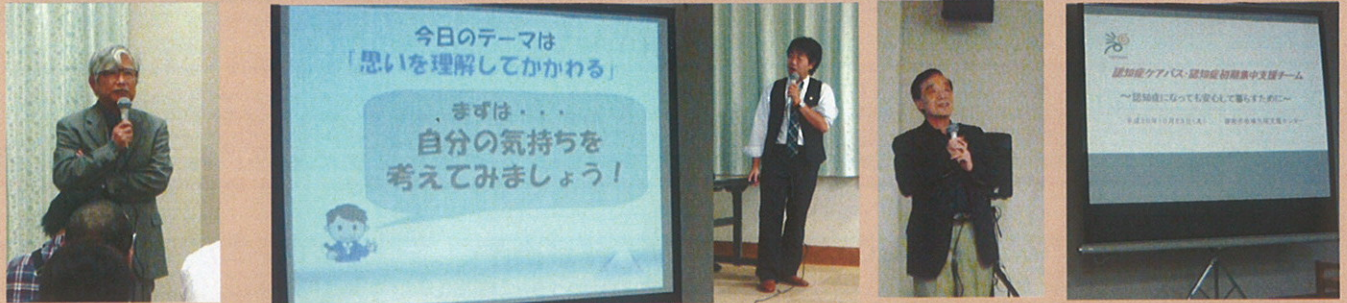
施設長 神谷 八千代

川口結いの家市民公開講座（認知症サポーター養成講座）

「地域で支える認知症 ～思いを理解してかかわる♪～」

1回目：平成26年10月23日（木）13:30～15:30／18:30～20:30

2回目：平成27年 1月23日（金）13:30～15:30／18:30～20:30



<プログラム>

- ・あいさつ 「今日からあなたも認知症サポーター」
- ・碧南市高齢介護課 「安心ッス!! へきなん支え愛ネット支え愛サポーター募集」
- ・碧南市地域包括支援センター「碧南市認知症ケアパス」
- ・基調講演／渡辺哲弘氏 「地域で支える認知症～思いを理解してかかわる♪～」

1971年生まれ。名古屋市出身。信州大学教育学部卒業。認知症介護指導者。社会福祉士。介護福祉士。介護支援専門員。株さくらめき介護塾代表取締役。年間250回の研修、講演を行う。

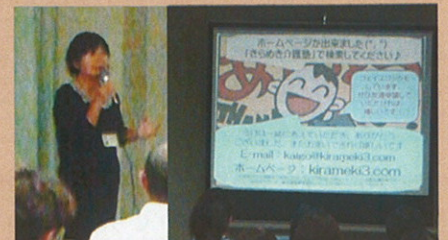


平成26年10月23日（木）昼の部は、杉浦勇人副理事長による開会挨拶、夜の部では、堀尾静理事長による開会挨拶で、川口結いの家市民公開講座が開講しました。

今回の講座は、『認知症サポーター養成講座』ということで、碧南市在宅ケアセンター：中崎聖子所長にもお越しいただき、「碧南市における認知症の方や家族の方に対する行政としての取り組みについて」話をいただきました。

その後、碧南市高齢介護課：高松様より「安心ッス!! へきなん支え愛ネットサポーター募集」の紹介、碧南市地域包括支援センター：葛原様、鈴木様から「碧南市認知症ケアパス」についての説明があり、碧南市の取り組みを学びました。

基調講演では、渡辺哲弘先生をお招きして「地域で支える認知症～思いを理解してかかわる♪」をテーマに、ご講義いただきました。「認知症というのは、脳に起きた変化によって、記憶障害（物忘れ）がおこり、日常生活を送ることが困難になっている状態」「記憶障害がおこると、情報を覚えることに時間がかかるようになる」「食事の内容を覚えていられないのではなく、食事を食べたことを忘れてしまう」「忘れてしまうこともあれば、忘れないで覚えていることもある」…。



昼の部は齋藤健統括マネージャー、夜の部は神谷八千代施設長による閉会挨拶にて市民公開講座（1回目）は終了しました。

渡辺先生の講演を聴き「認知症になったからと言って、全てのことがわからなくなったわけではなく、わかりにくくなっただけ。その中で、目の前の環境に適応しようと一生懸命考え、自分なりに正しいと思うことをしているのです」という言葉がとても印象的でした。

居宅介護支援事業所：飯嶋進哉

介護福祉士実習生受け入れ

昨年に引き続き、慈恵福祉保育専門学校より2名の実習生の受け入れを行いました。

10月13日より11月14日の土、日を除いた25日間実習を行いました。

実習当初は緊張の中、職員に確認しながら一つ一つゆっくりと入居者様に関わり、情報収集し丁寧に対応していました。

少しずつ実習の環境にも慣れ始めた実習中盤には入居者様個々の情報を聞き取り、実習生らしく一生懸命に入居者様と向き合って対応をしてくれていました。

その一生懸命な姿をみて、私自身も初心の大切さを再度確認する事ができました。

実習の後半には、買い物援助実習として近所のスーパーへ一緒に買い物へ行きました。入居者様をご自分で買いたい物を選び、レジに並んで買う。

当たり前の事ですが、入居者様にとってはとても楽しい事なんだと実習生も積極的に声をかけながら笑顔で対応していました。

実習生の受け入れは職員にとってプラスになる事も多く、学ぶ事もたくさんあります。

今後も受け入れを続けていきたいと思えます。



介護主任：加藤靖崇

事故対策委員会より

川口結いの家では事故対策委員会を月一回、開催しております。

メンバーは各事業所より、介護、看護、相談員等が参加し、総勢11名です。

毎月の委員会では、事前に集計した事故報告書とヒヤリハット(事故が発生する一歩手前の状態)報告書の内容を精査して、全職員に喚起すべき事案を検討しています。また、危険予知訓練も行っています。介護現場の写真を見て、そこから起こる可能性がある危険を予測し用紙に書き出す訓練です。その回答を集計して各フロアに配布することをおこなっています。

今年度は「事故予防マニュアル」の改定作業を進めるとともに、「転倒、転落と誤飲の事故対応マニュアル実演」の勉強会を行いました。勉強会では事故時の適切な対応を学ぶことが目的でした。来年度は「実用的な移乗や介助方法」の勉強会などを検討していきたいと思えます。

事故対策委員会は、「介護事故の発生を未然に防ぐとともに、起こった事故に対しては、その後の経過対応が速やかに行われ、利用者様に最善の対応を提供できることを目的とする」という理念を持って活動しております。これからも利用者様の安全、安心な生活の手助けをしていきたいと思えます。



事故対策委員長：岩月謙治

餅つき大会

12月16,17,25,26日に毎年恒例の餅つき大会を行いました。今年は風が強くとても寒い日になりましたが、入居者様は寒さに負けず、パワフルに餅つきをされていました。まわりの方々も「ヨイショー」と元気な掛け声で盛り上げていただきました。

できあがったお餅はあんこ、きなこ、砂糖醤油をつけていただきました。みなさん「おいしい」「おもちはいいね」と、大変喜ばれていました。今後も季節を感じていただける行事を大切にしていきたいと思ひます。



わたしも
がんばるわ。
えいえい！



若い者には
まけんぞ！
は～
どっこいしょ！

あんこもち、
きなこもち、
砂糖醤油味も
食べました。



餅つき執行部会 倉田敏生

”精いっぱい人生を大事に”

新年明けましておめでとうございます。
新しい年が良い年でありますようにとひたすら祈る。いまは”祈る”事が大事なのだ。いま生きていることを大事にしたいと思う。
そう、いまを大事にしていきたい。年を数えるごとにそう思うのです。
やっぱり新年はいいものだ。だが若いころのように新年が忙しく無いのが淋しいのではないか。なにかあるだろうと思う。日記を書くこともいいだろう。自分なりの約束ごとでもいいわけだ。せめて正月の間だけでもすがすがしくありたい。明日という日のために元気に楽しく生きようではないか。
そう、生きるということは大変なことでもあります。年を重ねるごとに”生きる”ことと”死ぬ”という行為が両輪のように重なってくるのです。若いころは死ぬという言葉は遠ざけていたのです。それが老いを重ねるごとに”死”の言葉に引き込まれてしまうのです。でも人は”生きる”と”死ぬ”しかありません。やはり”生きる”に重きを置いていこうではありませんか。死ぬのは生の最期ですから、精いっぱい人生を大事に大事に生きていきたいと思ひます。

著者略歴

坂田佳代：昭和6年1月生まれ
県立碧南高校卒業と同時に名古屋演劇集団の研修生となる。3年間の研修生訓練について劇団員となる。28歳まで続けたが父の死によって断念した。働くことになり碧南に完成した「ローカル誌・中部新報社」に入社。新報一直線であった。
著書に「坂田佳代・おんなひとり地方新聞づくり三十年 社内独語」砂子屋書房がある。
在職中に碧南市より功労賞を受賞する。
現在グループホーム川口結いの家に入居している。

ボランティアさんの活動報告

平成26年10月～12月

- 加藤訓江様(押し花)
- 琴都会様(大正琴演奏)
- 榊原純子様(体操クラブ)
- さくら琴舞会様
(詩吟舞踊・大正琴・フラダンス)
- 鈴の会様(移動売店/もちつきお手伝い)
- だいじょうぶ委員会様(呈茶と演奏)
- タカ&オカ様(オカリナ・ハーモニカ演奏)
- パピリオン様(南京玉簾・大正琴・手品)
- ヒロミフラスタジオ様(フラダンス)
- 碧南川崎会様(民謡演奏)
- 碧南傾聴の会様(傾聴)
- ひばり会様(演歌舞踊)
- 三葉会様(バンド演奏・マジック)

※五十音順

ボランティア担当：鈴木真穂